

# 札響くらぶ

No. 44



発行／札響くらぶ(財)札幌交響楽団内  
 札幌市中央区中島公園1番地15号(札幌コンサートホール内)  
 HPアドレス <http://members3.jcom.home.ne.jp/sakkyoclub/index.html>  
 Eメール [sakkyoclubmail@yahoo.co.jp](mailto:sakkyoclubmail@yahoo.co.jp)

## 札響くらぶ 秋・冬の活動案内

札響くらぶでは、今年も秋冬にかけてたくさんの活動を計画しています。会員の皆様の多数の参加をお待ちしております。

### 練習見学会の開催

これまで練習見学会は、札幌芸術の森・アートホールでの練習とキタラでのゲネプロを見学していましたが、キタラでのゲネプロが札響主催で一般公開になったこと、札幌芸術の森・アートホールでの練習は参加者の減少などで一時休止しておりました。しかし、札響が行っていたキタラでのゲネプロの一般公開が昨年より取り止めとなったことなどから、再開を望む声が多く寄せられていました。そこで見学会の再開1回目として、第513回定期演奏会(A日程11月14日、B日程15日)の練習を札響にお願いし、11月13日(木曜日)のキタラでの練習の見学が了承されました。参加申込方法等は、同封の「練習見学会のご案内」をご覧ください。

### 札響との交流会

今年度は、屋外での実施を検討し調整してまいりましたが、時期的に難しくなってきました。そこで、12月の前半に少し早いですがクリスマスにかこつけて、参加者



昨年の交流会の様子

が持ち寄ったプレゼントの交換やビンゴゲーム(賞品は参加者のご家庭などで眠っている物などを持ち寄って充てる)など、会員と団員さんが相互に楽しめるパーティーを行おうと計画を練っております。日時などが決まりましたらご案内させていただきますので、多数の方の参加をお待ちしています。

### JOFC in 山形への参加

JOFCとは、日本プロオーケストラファンクラブ協議会(会長、上田文雄札響くらぶ会長)の略称で、2006年(平成18年)11月、札響くらぶの提唱で設立されたプロオーケストラのファンクラブを会員とする全国横断的組織です。総会は、会員持ち回りで毎年1回開催され、各クラブの活動報告や協議会の活動計画を協議しながら、開催地のオーケストラの演奏を聴いたり、ファンクラブ同士の懇親、友好を深めています。



昨年の第1回JOFC総会(仙台)の様子

今年の第2回総会は、山響ファンクラブの主宰で、11月23日(日)に山形市において開催されます。昨年の仙台での総会には上田会長はじめ運営スタッフ、会員など13名が札響くらぶとして参加し、楽譜支援金などの活動報告、仙台

フィルの定期演奏会や交流会、松島観光を楽しみました。

今年も会長はじめ運営スタッフ、会員などで参加を予定し、次のようなスケジュールでツアーを計画しております。皆さんも一緒に参加してみませんか。

(事務局長 武藤義典)

### ツアー計画の概要

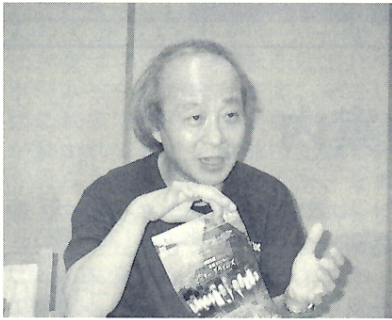
#### 第1日目

11月23日(日曜日)  
 新千歳空港発8:45発(ANA720)  
 仙台空港着9:55着  
 仙台空港駅10:13発  
 (JR仙台駅乗換)  
 山形駅11:58着  
 (到着後周辺で昼食)  
 演奏会:午後2時～  
 山形テルサホール  
 宿泊:山形国際ホテル  
 (シングル、朝食付)  
 総会:午後5時～  
 山形国際ホテル  
 懇親会:午後7時～  
 山形国際ホテル

#### 第2日目

11月24日(月曜日)  
 JR山形駅11:34発  
 (JR仙台駅乗換)  
 仙台空港駅13:39着  
 (到着後空港内で昼食)  
 仙台空港発15:00発(ANA725)  
 新千歳空港着16:15着(解散)  
 費用:43,000円(概算。往復航空券、宿泊料、演奏会チケット、懇親会会費、雑費を含む。)  
 ※札幌駅～千歳空港駅間の乗車券(片道1,040円)、仙台空港駅～山形駅間の乗車券(片道1,680円)は各自でお支払いください。

去る7月26日、キタラにおいて9月の定期演奏会で「ピーター・グライムズ」を振る尾高音楽監督にその意気込みを語っていただきました。こちらの質問に対し、身振りを交えて熱く語ってくださる尾高音楽監督から、この作品にかける情熱を感じとることができました。この定期演奏会が、新たな札幌の1ページを創り出す演奏になることは間違いありません。皆さんも尾高音楽監督の情熱を感じ取っていただき、期待を胸に定期演奏会の会場に足をお運びください。



### すごいオペラと出会いました

僕は以前ウィーンに留学していました。桐朋学園ではオペラを教えていなかったのですが、ウィーンでは特に勉強していたというわけではないのですが、オペラが好きでいろんな公演に行っていました。あの街は毎日オペラをやっているんですね。国立歌劇場だけで年間300回位上演していますから、僕がウィーンにいた10ヶ月のうちに150本以上を観ました。主にイタリア・オペラが中心で、フランスものや、たまにロシアものもありました。ところがその後、日本でロンドンのロイヤル・オペラの引越し公演があったときに「ピーター・グライムズ」がプログラムされていて、僕は「知らないなあ」と…。もちろん名前は知っていましたが、生で聴いた事がなかったのです。会場は東京文化会館でした。指揮がコリン・デイビスさんで、演出がとても変わっていたのです。僕たち観客が会場に入ったときに、舞台の上がザワザワしている。幕が開くでもなんでもなく、そこにもう登場人物がいるんです。会場全体が舞台となる集会场の中で、ピーターの裁判を待っているって言う設定なんですね。そこへ裁判官が現れて「静かにしなさい」って始まる独特な演出だったわけです。歌手もすばらしかったし、今まで僕が聴いていたオペラとは全然違う要素があるので、これはすごい作品だと思い

ました。縁があり、BBC ウェールズ響を振ることになり、英国で仕事することになりましたが、そこでも合間によくロンドンに行き、ロイヤル・オペラなどでオペラをよく観ました。「ピーター・グライムズ」をやりたいなとも思っていました。

### 公演としては2度目なんです

読売日響の常任指揮者を6年務め、終わるといふときに、「最後は、すごいものやってくれませんか」というお話がありました。それで、英国で出来なかった「ピーター・グライムズ」が出来ると考えたのです。でも、いきなり日本人だけで出来るとは思わなかったし、英国のすごいソリストを呼びたいというのがあったので、マネージャーに試算してもらいました。そうしたら、やはり凄い額になるんですね。どうしてもやりたいとお願ひして、実現することが出来ました。そのほかにも問題があって。合唱は晋友会という日本一の合唱団にお願いしましたが、読売日響の練習場となる「よみうりランド」では遅くまで練習すると合唱団のメンバーは家に帰れない。そこで、読売新聞の本社ビルの上の階をあけてもらって、そこでオケと合唱が一緒に練習しました。

練習初日から感動的でした。自分が勉強したことを以上のものが、毎日毎日どんどん出来上がっていくんです。というのも、出演やスタッフの英国人たちは、まさか日本人がここまで出来るとは思っていなかったし、日本人の方は英国人の中にしみこんだ「ピーター・グライムズ」の凄さに圧倒された。英国のソリストたちは練習から常に全力投球で、休み時間には日本人ソリストたちに個人的に細かなアドバイスをしてくれました。コンマスのチェコ人ブルバーさんは、

こんなすごいオペラがあるのかと泣いちゃうくらいでした。その時に、コンマスの横で弾いていたのが大平まゆみさん。「懐かしいね。読売新聞の本社の上だったね。」と、この前も話をしました。今でも一緒に演奏した人と英国で会うと、あれは凄かったと言ってくれるんですね。

札幌でとりあげる事が決まったとき、主役の2人はやっぱり英国から呼ぼうかなと思ひました。でも、例えばピーター・グライムズだけが英国人、他が日本人ではつながらないですよ、オペラっていうのは。そこで、日本人歌手のリストを出してもらって、候補を選び、キャストイングしていくのがとても大変でした。候補の方は皆もの凄く忙しいんです。それでも、すばらしい日本人ソリストの方々に出演していただくことができました。最後まで悩んだのは英語を教えてくれる英国人を、それもオペラの英語を教えてくれる英国人を招聘すべきかという事でした。でも、この際すべて日本人で制作したいということで、英国に長くいらっしやって英語に凄く詳しい人をお願いしました。読売日響でやった時も、英国のソリストたちは、「英国の合唱団よりよっぽど英語が聞こえる」と言っていました。それはそういうものですね。日本の合唱団は日本語がはっきりしません。母国語はどうしても雑になりがちなんです。ブリテンの作品は、声量よりなにより1番大事なのがドラマ、それから音程とリズムが良くないといけません。日本人はその辺が上手なので、ある意味、日本人はブリテンのオペラに向いているんじゃないかな。一方、日本人にとって技術的に難しいのは、英語を早口でしゃべるといふ事です。つい書いていることを全て喋ろうとするんですが、そうしたら絶対におさまらない。肝心なところの母音だ

けをまず当てて、それに子音を乗せて、間をなんとなく言えばいいんです。全部喋ろうとすると、発音は聞こえても話が聞こえてこない。日本のソリストは英語で歌う経験が少ないので、特訓してもらっています。発声もイタリアやドイツと異なり難しいですが、日本人はいい意味で器用なのでそのへんもクリアしてくれていると思います。前回の会場であるサントリーホールとキタラは似ているので、ほとんど同じ配置でやります。ただ、歌の主役級をステージの前方ではなくオーケストラの後ろに、主役級3人を前に、他のソリストを後ろにと2列に配置するつもりです。その後ろのP席が合唱団です。

## 島国のお話です

イタリアやドイツのオペラと1番違うのは、これは島国のお話です。物語の設定となる英国は日本と同じ島国で、ストーリーも村八分がテーマになっている。日本と共通点がいっぱいあるんですね。このオペラの舞台となったのは英国の東海岸のオールドバラと言う町で、音楽祭もあり何度も行っています。そこにはブリテンの家もお墓もあります。そのお墓のあるところの教会がオペラにも登場します。ブリテンは、このオールドバラの海岸線がものすごく好きでした。道路から、砂丘みたいなところを歩いていくと海岸線になり、その向こうが荒い海です。このオールドバラのまちはロンドンからの交通の便が最悪なんですね。それでも、彼はそこに住んでいた。オールドバラの土地、海岸線、湿地帯などがとても好きだったから。それが「ピーター・グライムズ」に出できます。ピーターが村人たちに追われそうになっているとき、「俺のルーツはここだ。俺はこの湿地が好きだ。」とブリテンが言いたいことをピーターが全部言っている。ピーター・グライムズは少年をいじめて殺したという設定になっていますが、本当にいじめたかどうかは、どこをどう読んでも分からない。一生懸命教えていたら、死んじゃったのかもしれない。教えるときには殴ったとも考えられる、荒くれ者だから。でも、彼は土地を愛している、少年を愛して一生懸命だったから、

そういう事件が起こったのかもしれない。けれども、反論できない状況になってしまっているわけです。全体を見ると、土地を愛しちゃんと漁をしているピーターが1番ノーマルな存在で、周りの人たちの方が本当はおかしいと見えてくるオペラでもあるわけです。ブリテンの最初の稿では、現在のスコアにはないせりふが、最後の方に延々とあります。ピーターには死ぬ気がないのにバルストロードが自殺するように説得するのです。ピーター・グライムズが本当に悪いことをしていた男だったら、このセリフにある「なぜ俺が死ななきゃならないのか？」という素朴な疑問は出てくるはずがない。その辺が最終的にカットされてしまいましたが、結果として、エレンはいい人で、ピーター・グライムズだけが真っ黒という風に見えたらこのオペラは見えてこない、と僕は思っています。今回のピーター・グライムズ役の福井敬さんと先日練習しましたが、今までのピーター・グライムズとは違うピーターを演じてくれそうです。実はピーターは、そんなに悪い奴ではないというイメージが僕の中にはあるわけですが、福井さんはそんなピーター像にぴったりです。



## 札響はもっと上手くなりますよ

札響は以前に比べずいぶん上手くなりました。でも、音楽をやる時、交響曲も室内楽もオペラも本当は全部出来なきゃならない。ウィーン・フィルの強みは、オペラを毎日演奏していて、それでシンフォニーもやる。札響はオペラの回数が少ないんです。今回、演奏会形式のオペラを定期公演に取り上げることは、オーケストラにとって大きな意味があります。相当な日数練習しますが、単に難しい曲として練習するだけではなく、言葉が付いているドラマはこんな

に違うのかということを感じていてほしいです。歌を聴いて演奏していかなくてはならないのです。歌を聴いてあわせることが出来ると、オーケストラは自然に呼吸するようになります。今回は単なる第一歩です。札響は演奏会形式や、ボックスに入ったりと、オペラにもっと接しなきゃならない。そうすることによってマーラーの作品のある部分ももっと上手くなっていく。そういうことをしなくちゃいけない段階に札響は来ているのではないかと思っています。

今回の公演は東京ですごく話題になっています。僕が前に演奏してから10年間、東京ではどこもとあげていない。やりたいという話は出ますが、どこも実現しない。それを「エッ、札響が?!」、と言ってくれます。英国からも数人聴きに来る予定です。東京からはたくさん来ると思います。

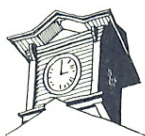
## 楽しんでください

聴きどころはたくさんあります。まず、オーケストラの間奏曲があります。単に間を埋めるという事じゃなくて、歌以上の表現力でオーケストラに語らせる。ブリテンの面目躍如たる所です。全編ドラマなんだと、そこにブリテンのパッションを感じます。もちろん辛いドラマだとも言えます。先ほどお話した通り、オールドバラと呼ばれる小さな集落でこんなに歪められて悲劇が起きてしまう、でも、どこでも起こりうる大きく深いドラマです。オペラと言うより究極の人間模様を味わっていただければと思います。さらに、すごく難しいソロや合唱、オーケストラによって、静かな月夜から嵐まで、怒涛のごとく表現されて出てきます。難しいのではと思っている人も聴いてくだされば、きっとわかります。以前、読売日響の演奏でも、終わったあともまだチンプンカンプンだったという人は誰もいませんでした。ただ、より理解するためには音だけではなくてDVDなど映像をご覧になって大体のストーリーを分かっていると、もっと楽しめると思います。

(松尾英樹・松尾眞理)

## 札幌物語 43

# 500回定期を迎える 札幌の街（その5）



今年にはレナード・バーンスタイン生誕90年になる。PMF2008、7月19日には札幌とPMFオーケストラが一緒になって札幌音楽監督・尾高忠明の指揮、ピアノ独奏・小曾根真でバーンスタインの交響曲第2番「不安の時代」を演奏した。PMFが始まった1990年には叶わなかった札幌の指揮者によるPMFオーケストラと札幌の共演が実現した一夜だった。感動を与えた見事な演奏だった。残念なことに携帯電話電波のバリアが張ってあるはずのキタラホールで小曾根真が静かにピアノのカデンツァを演奏している最中にどこかで携帯が鳴った。鳴ったのは仕方がないが、小曾根はすかさずカデンツァの中に取り込み一瞬緊張した聴衆がフット和んだ。小曾根の対応は実に見事なものだった。そして500回を数える札幌定期演奏会と19回になったPMFが育てたレベルの高い聴衆はこのアクセントを「くすっ」とやり過ぎたのだった。

今年8月9日に8年振りに知事公館でのグリーンコンサートが立派な仮設ステージで3000人余の聴衆を集めて再会された。1978年9月に道庁赤レンガ庁舎前で当時の

音楽監督、故岩城宏之の指揮で第1回目が開催されたグリーンコンサートは'82年に指揮者、尾高忠明で第5回目を行い、翌年から会場を知事公館に移動して2000年まで行われ、その後中断されていた。今回は始まって30年を記念しての再開だった。

会場が第5回まで開催された赤レンガ庁舎前から知事公館に移された事情は案外知られていないようだ。第1回目のグリーンコンサートに赤レンガ庁舎前庭を使用する時、庁舎を管理する道庁の窓口は拒絶反応を示した。1969年に国の重要文化財に指定された赤レンガ庁舎の前庭は「汚されたくない荒らされたくないので不特定多数の集会に貸し出していない」と言われたのである。それを当時の副知事が「文化活動にだったら使用して良い」と許可してくれて実現したのだった。現場職員からは「もし、少しでも汚れていたら二度と貸さない」との条件付きで使わせて貰った。開演前にステージの上から「グリーンコンサートをクリックコンサートに」と訴え、当時、専売社からたばこの簡易吸殻入れを1万個もいただいていたばこを吸う人に配った。あの広い

前庭に道警発表3万人もの人が開演1時間も前から集まった。池の回りも人で溢れていたのが落ちたら大変と心配した道庁は鯉が困らないところまで池の水位を下げてくれた。終了後、リアカーを引いて前庭を点検して歩く道職員の後を心配でついて回った。ごみはあった。たばこの吸殻が7本だけ落ちていた。「来年も続けて下さいね」と言われた。仮設ステージを造った赤レンガの玄関前に木が植えられた。5年経ったらその木も育ってステージを造れなくなった。グリーンコンサートのステージをどうしようかと問題になった時、道民にとってはとても大切なコンサートなので木を切ってもステージを造るべきだと言う人もあった。しかし、その木も国の重要文化財として登録されていたため切ることにはできなかった。その時当時の横路孝弘知から「知事公館でやったら」と声をかけられ場所を移して続けられた。

第1回目のグリーンコンサートを指揮した岩城宏之氏、その3週間後の第189回定期でスメタナ作曲「モルダウ」ほかを指揮したスロバキア・フィルの名指揮者ズデニェク・コシュラー氏、共に鬼籍に入っている。30年はやはり3昔になるようだ。

来年のグリーンコンサートを開催して欲しいと願うのは私だけだろうか。

（竹津宜男）



### あの感動をもう一度 エリシュカ指揮による4月定期のCD発売決定

ラドミル・エリシュカ指揮 札幌交響楽団  
ドヴォルジャーク 交響曲第6番 & ヤナーチェク タラス・ブーリバ  
(4月11、12日・札幌コンサートホール Kitaraにて収録)

定価2,500円 ■DQC-100 製作・発売：バスティエル

札幌定期演奏会会場では9月からピリッキヤが販売します。

または、お近くのCDショップなどでお買い求めください。

問い合わせ 052-935-9901 (オフィス・プロウチェク)

# 10・11・12月 札幌定期のききどころ ～定期演奏会を満席に～

今後の札幌定期のききどころを札幌くらぶ会員に語っていただきました。素敵な演奏会が予定されていますので、皆さんもお友達を誘って定期演奏会に出かけましょう。私たちの手で定期演奏会をいつも満席にしましょう。

## ■第512回定期演奏会

10月10日(金)19:00～ 11日(土)15:00～  
指揮：マルティン・トゥルノフスキー  
独奏：ヨハネス・モーザー (チェロ)  
曲目：ドヴォルジャーク/交響詩「野鳩」op. 110  
シューマン/チェロ協奏曲イ短調 op. 129  
ブラームス/交響曲第4番ホ短調 op. 98

マルティンさんをご存知ですか。群馬交響楽団の首席客演指揮者として活躍しています。と言うことは、札幌正指揮者の高関さんとずっと一緒に群響を振っていたんですね。プラハ生まれでカレル・アンチェルに指揮を学びました。もちろんドヴォルジャークはお手のものですが、ブラームスも高い評価を得ており、期待される演奏会です。ちなみにご子息のシュテファンさんはウィーン・フィルのファゴット奏者でPMFの教授として何度も来札しています。

## ■第513回定期演奏会

11月14日(金)19:00～ 15日(土)15:00～  
指揮：尾高忠明 (札幌音楽監督)  
曲目：ヴォーン＝ウィリアムズ/タリスの主題による幻想曲  
ディーリアス/楽園への道  
エルガー (ペイン補作)/交響曲第3番ハ短調 op. 88

尾高音楽監督お得意のイギリスの作曲家の演奏会です。今回の曲の中で私が聴いたことがあるものは、エルガーの交響曲第3番を札幌のCDで聴いたのみで他の曲は初めてとなります。しかし、イギリスの音楽がこのように取り上げられるのは、札幌の定期の特徴でもあるし、尾高さんならではの企画と言えるでしょう。イギリスの曲は綺麗な響きをもち(もちろん今回の3曲はどれも違う響きを持っているのですが)、終演後はいつもいい曲だったなあ満足して帰路に着きます。

## ■第514回定期演奏会

12月5日(金)19:00～ 6日(土)15:00～  
指揮：高関 健(札幌正指揮者)  
独奏：館野 泉(ピアノ)  
曲目：ラヴェル/スペイン狂詩曲、左手のためのピアノ協奏曲ニ長調  
道化師の朝の歌、高雅で感傷的なワルツ、ラ・ヴァルス

ラヴェルの「左手のためのピアノ協奏曲」は館野泉のために書かれたのではないだろうか。そんな風に思ってしまう。曲は可憐な感じあり、ジャズ風のテイストありのまさにラヴェルそのものという風なのだが、館野泉は見事に自分の曲として演奏している。館野というとフィンランド・シベリウスというイメージが強いが、このところ、積極的にコンサート活動なども行い、左手によるピアノ作品を取り上げている。また、館野のために左手の作品を書く作曲家も多く、この10月17日には「四人の作曲家による新曲初演」と題した館野泉のコンサートがキタラ(小)で開かれる。

## 楽員さん出演 コンサート案内

詳しくは札幌くらぶホームページで

### ■New プラズマコンサート Vol. 3

トランペットとピアノの夕べ  
10月22日(水) 19:00開演  
場 所：時計台ホール  
出 演：前川和弘(札幌トランペット奏者)  
柴田千賀子(ピアノ)  
曲 目：ファリャ/7つのスペイン民謡  
クラーク/ヴェニスへの謝肉祭  
シューベルト/アヴェマリア  
他  
料 金：2,500(一般)、1,500(高校生以下)  
問合せ：山科 011-853-3197

### ■Mayumi Vol. 3

10月23日(木) 19:00開演  
場 所：ザ・ルーテルホール  
出 演：大平まゆみ  
(札幌コンサートマスター)  
浅井智子(ピアノ)  
曲 目：クララ・シューマン/3つのロマンス  
デイトリッヒ、シューマン、ブラームス/  
「FAE ソナタ」  
ブラームス/ヴァイオリンソナタ第3番  
料 金：3,500 全席自由  
問合せ：エム・ムートン 011-667-0298

### ■門馬邸の秋

オーボエとチェンバロの響き  
10月26日(日) 14:00開演  
場 所：ギャラリー門馬  
出 演：岩崎弘昌(札幌オーボエ首席)  
明楽みゆき(チェンバロ)  
曲 目：クープラン/クラヴサン組曲より  
フォルクレ/クラヴサン組曲より  
バーム/クラヴサン組曲より  
ルイエ/オーボエソナタ  
ヴィヴァルディ/「忠実な羊飼ひ」  
他  
料 金：3,000  
問合せ：実行委員会 090-5985-8310

### ■文屋治実チェロリサイタル NO. 23

札幌のピアニストと共に Vol. 3  
11月4日(火) 19:00開演  
場 所：ザ・ルーテルホール  
出 演：文屋治実(札幌チェロ奏者)  
谷本聡子(ピアノ)  
曲 目：J・S・バッハ/無伴奏チェロ組曲第1番  
ベートーヴェン/チェロソナタ第5番  
シューベルト/アルペジオーネ・ソナタ  
料 金：3,500  
問合せ：アドビューロー 011-271-4225

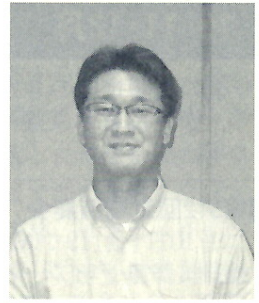
New アルバム『Trumpet Ave Maria』  
絶賛発売中 定価2,500円  
前川和弘(トランペット)  
イエンス・コルンドルファー(オルガン)  
【収録曲】①「テ・デウム」から前奏曲②アヴェ・マリア③-⑥コレリ/ソナタ第8番⑦ラルゴ「オンブラ・マイ・フ」⑧ヴォカリーズ⑨夢のあとに⑩「過ぎにし春」⑪聖グレゴリーの祈り⑫トランペット・ヴォランタリー⑬-⑮ネルーダ/トランペット協奏曲⑯コラール「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」⑰アヴェ・マリア⑱アヴェ・マリア

1st アルバム『All My Love』 絶賛発売中  
大平まゆみ(ヴァイオリン)、田中資子(ハープ)  
定価1,500円  
【収録曲】①グリーンズリブス変奏曲②マズネ/タイスの瞑想曲③エルガー/愛の挨拶④ドヴォルジャーク/ユーモレスク⑤ドニゼッティ/ソナタ⑥ヘンデル/ラルゴ⑦イベール/間奏曲⑧グノー/アヴェマリア⑨⑩トゥルニエ/2つのロマンティックな前奏曲⑪バッハ/ガヴォット⑫荒城の月⑬浜辺の歌⑭さくらさくら⑮モンティ/チャルダッシュ

# Player's talk 1

## ヴィオラ もののべ 物部

けんいち  
憲一



### ——ご出身は

大阪生まれです。父親が作曲家で、母親がピアノの先生でした。いわゆる音楽一家です。最初はピアノをやりました。ヴァイオリンは小1で始めたらしいです、僕は全然覚えてないですけど。弟がいます、彼が先に始めたらしいです。で、弟がやるなら僕もやると言ったようです。鈴木メソードの教室に通いました。

### ——音楽家になろうと意識したのは

実は、中学から高校にかけてプロを意識した事は全くありませんでした。ロック、ロックの毎日でした。でも、ヴァイオリンはやめなかったですね。それは、通っていた鈴木メソードの教室に合奏団がありまして、生徒がヴァイオリンとチェロ、先生がヴィオラを担当していました。ですから、アンサンブルの魅力は、小学生のころから気づいていました。当時の先生は、小学生や中学生と一緒に汗まみれになって遊ぶし、レッスンもしっかりする、すばらしい先生でした。それでも、高校1年の春休みまでは音楽家になろうとは考えてもいませんでした。ある日のことです。僕は、神様のお告げだと言っているんですが、突然むくっと起きて、父親に「音大を受験するので、先生を紹介してくれ」と言いました。そうして、現役で大学に入ることが出来ました。

### ——ヴィオラとの出会いは

僕が通っていた大学は規模が小さかったので、ヴィオラを専攻する学生はほとんどいない状態でした。だから、ヴァイオリン科の学生は2年間ヴィオラを必修でやらなきゃいけない。つまり、オーケストラの授業の時、ヴァイオリン科の2年生はヴィオラを担当するわけです。それがヴィオラとの出会いです。学生時代は、先輩がいろんなオーケストラにエキストラとして呼んでくれるんですが、ヴァイオリン奏者として呼ばれたのは一番最初の一回だけでした。それ以後はずっとヴィオラで、「体大きいからお前ヴィオラ」って、レッテルを貼られました。卒

業後は大阪のテレマン室内管弦楽団に入団しました。ヴィオラは二人しかいないので、首席ヴィオラ奏者でした。

### ——留学のいきさつは

テレマンで3年間過ごした後、恩師のコッホ先生が、日本に永住すると言う話を聞きました。この人はとても高名な方です。ドイツのオーケストラのヴィオラ弾きはたくさん彼の弟子なわけですが、とにかくすばらしい先生です。まだ日本にいらしたばかりで、生徒も少ないと聞きつけ、弟子にしてもらいました。高齢なのですが、練習は3時間ぶっ通しでしかも立ちっぱなしで、僕の方がへとへとになってしまうくらいでした。その先生との出会いでもっとヴィオラを勉強したいと思うようになり、テレマンでドイツに演奏旅行に行ったときには、留学している大学の同級生が「早く留学せえや」と…、これは行くしかないと思ったわけです。ドイツで勉強するしかないと思いました。それで、コッホ先生に相談して、ベルリンに行くことにしました。ところが、連絡が上手くいってなくてベルリンの大学に入るのはダメになったんです。路頭に迷っているときに後輩からウィーンだったらまだ間に合うと言う連絡があって、急遽ウィーンの大学を受けました。それで合格することが出来ました。ウィーンには3年間いました。

### ——札幌入団の経緯は

僕は93年のPMFのアカデミー生なんです。その年初めてPMFはヨーロッパからでも参加できるようになり、僕はまだウィーン留学中でしたから、これはただで日本に帰れるぞと思い、オーディションを受け合格しました。札幌にはそれまで一度も来た事がなかったんですが、札幌には留学時代に知り合った人もいて、交流する機会もありました。でもその時は、札幌を受けることは考えていなかったです。PMFが終わって、ヨーロッパで就職活動をしていました。でもベルリンの壁が崩壊した直後のドイツは、東側の音楽家を雇わなくてはいけなくて、日本

人が入団できる状況にはありませんでした。日本に帰ろうと決めたときに、以前ベルリンで知り合った友人が札幌にいて（ホルンの折笠さん）、札幌のヴィオラがあいたよと国際電話をかけてくれたんです。そうして、オーディションを受け、札幌に入団しました。

### ——インスペクターのお仕事は

練習が始まる前に指揮者とコンタクトを取って、演奏会で3曲プログラムされているときにどの曲から練習を始めるとか、曲によって弦は何人減らすとか、細かい打ち合わせを事前にして、練習が始まる前に楽員に情報として伝えることなど、練習がスムーズに進むように気を使います。現場で起こったトラブルの対処などもあり、なかなかしんどいですよ、この仕事。最近、外国人の指揮者が増えてきて、意見が合わないときなど、外国語で喧嘩するのは大変です。



### ——ご趣味は

車を運転するのが好きです。最近ガソリンが高くて大変です。他には、ビリヤードが好きです。宮川彬良さんもビリヤード好きで、札幌に来たら必ず連絡があります。先日も札幌の仕事ではないときに呼び出しがありました。突然メールが来て「空いてる?」、それがクリスマス・イヴの日だったんですよ（笑）。

### ——札幌くらぶに一言お願いします

今日、札幌があるのは、ファンの皆さんのおかげだと思っています。いつも心強い嬉しい思いでいっぱいです。これからも、応援よろしくお願いします。

(松尾英樹)

## Player's talk 2

トロンボーン

よ でん やすひろ  
余田 安広



### ——ご出身は

生まれ育ったのは京都府北部の城下町、福知山市です。いくつもの山々に囲まれたところで、そのひとつには「百人一首」などに歌われた大江山もあります。

昔から音楽は好きで、その一方で美術も好きでした。トロンボーンは高校の部活で始めましたが、授業の「芸術」科目は美術を選択していました。今も時おり、興味のある展覧会などには行きます。

### ——札幌入団までの経緯は

大学4年の時、「学外」で習っていた先生を通じて、札幌でオーディションがあるから受けませんかという話を真弓氏からいただきました。それに受かって、シュヴァルツ氏指揮の「定期演奏会」で様子を見ようということになり、チャイコフスキーの『交響曲・第5番』などを吹かせて頂いたのが札幌での初舞台でした。採用が決まって、大学卒業と同時にこちらに来ました。入団前後の一時期は、円山のふもとの「双子山」で居候をしていました。都会の中心近くに、こんなに自然が豊かで閑静なところがある。札幌は何てすてきな街だろうと思ったものです。

札幌で3年半過ごした後、パリに留学していましたが、81年に帰国した時、また札幌から声をかけられました。ところが同時期に、かつて何度か出演させて頂いた某地方オケにも空席ができ、そちらからも「オーディションを受けてくれませんか？」と誘われました。もちろんオーディションを受けても合格するとは限りませんが、そちらも演奏に定評があり、運営基盤もしっかりしたオケだったので迷いはありませんでした。そんな折、両方のオケをよく知る仲間が、私の気付かなかったことを語ってくれました。札幌の方がオケに対する市民の支持が厚く、温かいファンが多いと……。その言葉が、札幌に対する私の気持ちの追い風になったことは確かです。

### ——トロンボーンの魅力は

「トロンボーンの魅力」を、て

みじかに述べるのは難しいですね。音域が人の声に近く、デリケートな音程にも対応できるため、ルネッサンス期から声楽アンサンブルに重ねられてきました。音楽史上初の本格的歌劇、モンテヴェルディの『オルフェオ』でも重用され、以後さまざまな作曲家のオラトリオやミサにも用いられています。交響曲での初登場とされるのはベートーヴェンの『第5番』。この曲の、終楽章の開始を晴れやかに告げる主和音とともに、オーケストラのトロンボーンの新しい歴史が始まったと言えるでしょう。このほか、当時としては珍しいトロンボーン4重奏曲『エクァーレ』も書いており、ベートーヴェンのこの楽器への思い入れの深さが感じられます。モーツァルトやベートーヴェンがトロンボーンに託した音型は、現代の感覚からすると決して派手ではありませんが、後の作曲家たちを少なからず刺激したはずで、ベルリオーズ、マーラー、ラヴェル、ストラヴィンスキー、レスピーギなどの華麗な管弦楽曲では、彼らの個性がトロンボーンの多様な表現法にも反映されているようです。

### ——印象に残っていることは

70年代半ば、札幌の姉妹都市ポートランドとミュンヘンを訪ね、親善演奏する機会がありました。ある晩、ミュンヘンのビストロのような所で仲間とくつろいでいると、どこからともなく「生の音楽」が流れてくるのです。それは私が初めて耳にする、アコーディオンによるブラームスの『ハンガリー舞曲・第4番』でした。その素朴な旋律、音色、その場の空気との絶妙な取り合わせ……。これはまさに、生活に音楽が溶け込んだドイツの日常のひとつコマだと思いました。

そのほか、入団間もない頃の思い出として、小澤征爾氏が初めて札幌を指揮されたことが鮮明に残っています。ベルリオーズの『ローマの謝肉祭』『幻想交響曲』などの曲目でしたが、氏のタ

クトからは、オケの可能性を最大限に引き出す魔力のようなものを感じました。しかも次々と貴重なアドバイスを下さるのに、高いところからものを言われている感じがしなかったですね。少し後に、ドヴォルジャークの『新世界』などを指揮されたコシュラー氏や、85年にスメタナの『わが祖国』抜粋などを指揮されたノイマン氏の音楽作りも圧巻でした。外国からの客演指揮者の中でも、とりわけチェコの実力派が自国の作品を振られるとき、そこからは伝統意識や誇りを強く感じます。もちろん、エリシユカ氏のタクトからも……。

### ——今後、やってみたいことは

ヒンデミットの作品に『画家マティス』という曲があります。この「マティス」とは、フランスの有名な近代画家のことだと思っていたのですが、実際は中世ドイツのグリューネバルト・マティーアスという人物のことだと知りました。しかも、ドイツの一地方にある彼の代表作『キリストの磔刑』は、かなり衝撃的な迫力をそなえた絵らしいということも。これは一例に過ぎませんが、遠い世界の人目につかない場所で、強いオーラを放っているような作品があれば、いつか実際に見てみたい。そのような願望を持っています。

### ——札幌くらぶに一言お願いします

北海道ほどの人口の国フィンランドには、プロのオケが10団体以上あるそうです。そのひとつ「ラハティ交響楽団」はシベリウスのほとんどの作品をCD化し、高い評価を得ています。数年前にその札幌公演を聞いて、自分ではよく知っていたつもりシベリウス作品でも、繊細なニュアンス、表情の機微など、学ぶことの多さに改めて気付きました。そろそろマラソンのゴールが近づいてくる私ですが、つねに新しい気持ちで、おごることなく音楽に取り組み、皆様のご支援にふさわしい「SSO」の一員でありたいと考えています。

(余田さん本人筆)



## 「札幌くらぶ」で検索しましょう

皆さんはもう『札幌くらぶ』のホームページをご覧になりましたか。インターネットを立ち上げて『札幌くらぶ』で検索してみてください。検索画面に「札幌くらぶトップページ」がでてきます。それをクリックしましょう。出てきた画面の「札幌くらぶのホームページへはここをクリックしてお入りください。」をもう一度クリックすると、『札幌くらぶ』のホームページが表示されます。そこにはこれまでのさまざまなニュースが書かれており、以前の記録を見てそんなこともあったのか、を再確認。また、画面の左側には「INDEX」のボタンが

ホーム

札幌コンサート情報

概要に戻る

あゆみ

事業案内

入会案内

入会申込&Form

会則

会報『札幌くらぶ』

役員・運営スタッフ

交響楽団等リンク集

会員ホームページリンク集

Webシティさっぽろ札幌情報

おしゃべりROOM

と並んでいるので見たいボタンを押してみましょう。

「札幌コンサート情報」には札幌だけではなく団員さんが出演するコンサートも載っています。「カレンダー」で気になるものがあつたなら「スケジュール」をクリックすると詳細な情報が見られるようになっています。

「事業案内」では、過去に行つた

「札幌くらぶコンサート」、「札幌くらぶ総会」、「札幌との交流会」、「尾高音楽監督還暦祝い」、「札幌練習見学会」、「SPCとの交流会」、「楽譜支援例」の記録が、多彩な写真とともに見ることができます。

「おしゃべりROOM」は皆さんのページです。皆さんが日ごろ思っていることを自由に書き込むことができます。また、他の人の感想なども読めて、うなずいて見たり、ちょっと違うなと思つてみたり。

このホームページを、益々充実したものにするためにも皆さんのご意見・ご要望が必要です。これを見ての素直な感想をお聞かせください。

## 札幌くらぶ会員特典

- 札幌交響楽団定期演奏会、名曲シリーズのチケットの10%割引ただし、キタラチケットセンターのみの取り扱いとなります。他のチケットセンターでは適用されません。また、電話での予約は出来ません。窓口で会員証を提示した上でチケットをお求め下さい。
- テラスレストラン・キタラ 飲食10%割引。ただし、一部の

会員の特典は以下のとおりです。有効にご利用下さい。また、特典を提供してくれるお店をご存知の方はご一報ください。

- 商品を除きます。また、グラスワインのサービスがある場合もありますので、あわせて係員にお尋ねください。
- キタヤ楽器店(狸小路3丁目) 楽器以外の商品10%割引。ただし、店内に限ります。キタラ等の出店では適用されません。
- スナック『りつこ』(南6西3第2桂和ビル2F) 「札幌くらぶ溜り場」として特

- 別価格2,500円(税込)でウィスキー、焼酎2時間以内飲み放題(おつまみ、カラオケ付き)
- ダイニング『イル・ネージュ』(北区北12西1 北12条パークマンション1F) 札幌くらぶと申し出て下さい。シェフからの素敵な特典があります。ご予約・お問合せは ☎011-717-2555まで。

## 意見・感想をお寄せ下さい

会員の皆さんからの投稿をお待ちします。内容は問いませんが、以下の項目に関してのご意見を特にお待ちしています。

- 来年から復活する『札幌くらぶコンサート』で演奏してもらいたい曲目、またはオリジナルな企画
- 札幌くらぶ主催でやってもらいたいイベント
- 現在札幌くらぶでやっているイベントの改良点
- 会報に取り上げてもらいたい

記事

- 下記の①～③以外でプレゼントしてもらいたい商品 特に投稿の期限はありませんが、10月30日までに投稿して下さった方の中から、抽選でプレゼントを差し上げます。なお、当選は商品の発送をもってかえさせていただきます。

プレゼント商品

- 12月の札幌定期演奏会のS席チケット(3名様)(座席の指定はできません)
- 物部憲一さんのサイン入り色紙(2名様)

- 余田安広さんのサイン入り色紙(2名様) 投稿は、ハガキ、封書またはEメールでお送り下さい。なお、その際必須事項を必ずお書き下さい。

### 必須事項

住所・氏名・会員番号・希望のプレゼント商品の番号。なお、匿名希望の方は、「匿名希望」または「ペンネーム」をお書き下さい。(あて先は会報の題字の下にあります)

## 編集後記

多くの感動を残してくれた北京オリンピックも無事に終わりました。期間中はテレビにかじりつき日本選手の活躍に一喜一憂しました。特にソフトボールの上野投手はすごかった。決勝

前日、ダブルヘッダーの両試合を連投し、300球以上も投げぬいた上野投手。私はこれで決勝はもう投げられないんだろうなと思ひ、またアメリカの優勝で終わるのかと思っていたのでした。でも、上野投手は私の想像をはるかに超えた超人ピッチャーでした。決勝も1人で投

げぬき見事優勝。とても人間わざとは思えない瞬間でした。音楽でも同じです。人間を超え神の領域に近い演奏(と勝手に思っている)に出会うことがあります。我が札幌にもそういう演奏を期待し、一生懸命応援しています。

(松尾英樹)